

水田の裏作飼料作物と

田畠の輪換旱地に用いられる草



ております。このようなイネの時無し栽培が各地で行われる結果はその裏作飼料作物も非常に広範囲になつて参りましたが、各種稲作様式と結びつく飼料作物を挙げてみますと次の通りであります。

(4) 水稻の早期栽培の場合の裏作飼料

コンモンベッチ、燕麦、かぶ、イタリアンライグラス、

赤クロバー、ライ麦、C・O、ラデノクロバー、クリムソンクロバ

ー、ペレニアルライグラス、ルタバガ、

玉蜀黍等

(5) 水稻の晚期栽培の場合の裏作飼料

○秋播用(稻刈取後) 燕麦、ライ麦、コーンモンベッチ、赤クロバー、イタリアンライグラス等

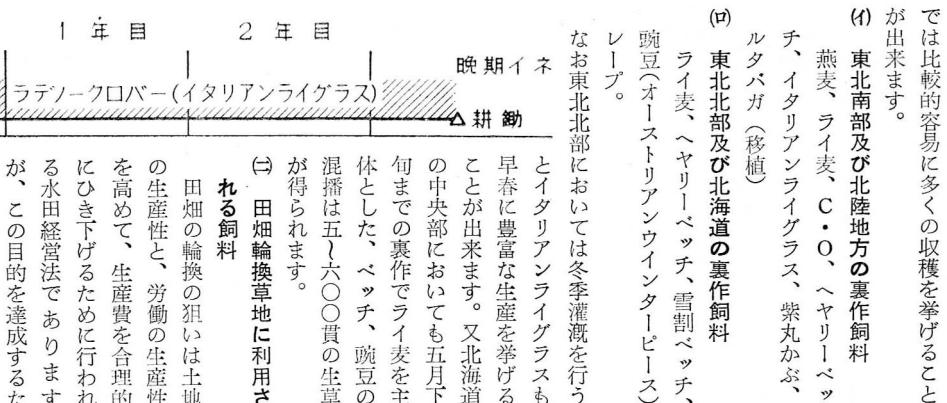
○春播用(稻刈取前) 青刈大豆、デントンライグラス等

(6) 水稻二期作の場合の裏作飼料

燕麦、ライ麦、C・O、ヘヤリーベッ

チ、イタリアンライグラス、かぶ等

これら作物の中、労力の関係で無耕起、



- (1) 東北南部及び北陸地方の裏作飼料
燕麦、ライ麦、C・O、ヘヤリーベッチ、イタリアンライグラス、紫丸かぶ、ルタバガ(移植)

(2) 東北北部及び北海道の裏作飼料 ライ麦、ヘヤリーベッチ、雪割ベッチ、豌豆(オーストリヤンワインターピース)

(3) 暖地の牧草多毛作の場合 レープ。

なお東北北部においては冬季灌漑を行う

とイタリアンライグラスも早春に豊富な生産を挙げる

ことが出来ます。又北海道の中央部においても五月下旬までの裏作でライ麦を主

体とした、ベッチ、豌豆の混播は五~六〇〇貫の生草

が得られます。

(4) 田畠輪換草地に利用される飼料

田畠の輪換の狙いは土地の生産性と、労働の生産性を高めて、生産費を合理的にひき下げるために行われる水田経営法であります

が、この目的を達成するた

めの輪換畠には飼料作物の栽培が最も有利であります

が、特に最近暖地においては

初霜の時期までに四~五〇日の牧草の生育期間をとれる場合は赤クロバー、チモジ

ー、オーチャード、ペレニアルライグラス等の牧草播種を行いますが、寒冷地では前記の裏作を行つて翌春から牧草又は青刈裁

すが、これは高温期に輪換畠は容易に灌漑が出来有利な飼料生産が出来るからであります。広島県ではラデノクロバーをこの方法で栽培し、一万貫近い収量を得て反当一五万円以上の牛乳を生産している地帯もあります。

- 田畠輪換地に利用される有利な飼料作物を選んでみますと、

(a) 暖地の牧草多毛作の場合 中国地方で年間六~七毛作を行い、反当四~五〇〇貫の多収を得ておりますが、この秋に播種される作物としては燕麦、ベッチ、ライ麦、イタリアンライグラス、かぶ、C・O、ルタバガ、豌豆等が主要なものです。

(b) 暖地の牧草栽培の場合 輪換畠での飼料多毛作も結構であります

が、これには多肥と多労が要求され、田畠転換の経営目的から相当にズレて来ます。その点牧草は特に灌水栽培を行いますと、夏枯れもなく、少肥、少労で多くの収穫が得られ有利であります。これに利用される牧草とは、ラデノクロバー、ライグラス、オーチャード、赤クロバー、アルサイクク

ー、ペレニアルライグラス等であります。これらの輪換畠を利用する栽培例を示しますと上図の通りです。

- (c) 東北、北海道の輪換畠に利用される飼料作物
初霜の時期までに四~五〇日の牧草の生育期間をとれる場合は赤クロバー、チモジー、オーチャード、ペレニアルライグラス等の牧草播種を行いますが、寒冷地では前記の裏作を行つて翌春から牧草又は青刈裁培に移行すべきであります。

(a) 西南暖地の稲作体形は最近は非常に変つて来ております。即ち従来の表作稲一裏作麦、菜種から早期栽培、晚期栽培、更に二回栽培と多毛作の傾向が強く、これによつて秋落ちを防止し、天災を回避し、そして水田の高度利用による生産増強を行つ

ます。またまだもつと裏作の飼料栽培を積極化すべきであります。気象的にも土壤的にも飼料栽培という緑作は実取作に較べて余程の悪条件にも耐えます。

(b) 積雪寒冷地の水田は殆どが休閑しておりますが、特に東北、北陸地方は積雪期間も

ます。またまだもつと裏作の飼料栽培が最も有利であります。